



【NRC自主調査レポート】

～ユニバーサルデザイン調査2020～

ユニバーサルデザインのまちづくりは どの程度進んでいると考えられているか 第2回調査

2020年10月調査結果

2020年12月



株式会社日本リサーチセンター

<https://www.nrc.co.jp/>



I. 調査実施の背景と目的

日本リサーチセンター（本社：東京都、代表取締役社長：鈴木稲博）は、1960年に設立された民間の調査研究機関であり、民間企業および官公庁、大学をはじめとする学術機関などの依頼を受け、各種の調査研究をおこなっています。

障害についての意識やユニバーサルデザイン、共生社会に向けても自主調査を実施し、その結果をまとめた調査レポートを発表してきました。

障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいようあらかじめ都市や生活環境をデザインするという考え方、それが**ユニバーサルデザイン**です。東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、全国各地で、誰もが安全で快適に過ごせるユニバーサルデザインのまちづくり、心のバリアフリーを広める取り組みが進みつつあります。

障害は、外見上わかる障害もあればわかりにくい障害もあり、それぞれの障害によってバリアの内容もさまざまです。ユニバーサルデザインのまちづくりを進めていくとき、多様な障害の内容を理解することで、より有効なバリア解消法が見えてくると考えられます。

障害の多様性は人々にどのように認識されているのでしょうか。また、2020年現在、人々が日常生活の中で、ユニバーサルデザイン化が行き届いていないと感じている領域はどこでしょうか。

このようなユニバーサルデザインのまちづくりに関する人々の意識実態を明らかにするため、2019年にこの調査を企画し、2020年も同内容で調査を実施しました。

本調査が、社会の議論を深める一助となれば幸いです。

調査項目

- ・ユニバーサルデザインが不足していると感じる領域
（もっと工夫や配慮があればさまざまな人に利用しやすくなると思う日常場面での場所・こと）
- ・「障害」種別想起・「障害者」認識の状況（障害のある人と聞いて思い浮かべる人）

<参考> 障害についての意識やユニバーサルデザイン、共生社会関連の日本リサーチセンター自主調査
ユニバーサルデザイン社会の実現度 定点観測調査_第4回調査（2020年10月調査結果）

<https://www.nrc.co.jp/report/201221.html>

障害のある人の政治参加と就労・就学に関する調査（2019年9月調査結果）

<https://www.nrc.co.jp/report/191111.html>

II. 調査実施概要

調査方法

調査員による個別訪問留置調査 日本リサーチセンターオムニバスサーベイ（NOS）を利用

調査対象

全国の15～79歳の男女個人 1,200人

調査実施期間

第2回調査 2020年10月2日～10月14日

第1回調査 2019年8月30日～9月11日

抽出方法

住宅地図データベースから世帯を抽出し、個人を割り当て

調査実施主体

株式会社日本リサーチセンター(自主調査)

日本リサーチセンター オムニバス サーベイ（NOS）について

弊社では、**全国15～79歳男女1,200人を対象に、訪問留置オムニバス調査（NOS）**を定期的実施しています。

訪問調査員が、層化無作為抽出した全国200地点で、住宅地図から無作為に抽出したお宅を訪問し、地域・都市規模と性年代が日本の人口構成に合致するように対象者に依頼する調査です。そのため、全体結果は、日本全国15～79歳男女の実態や意識をバランスよく反映したものとご覧になれます。

NOSの特長

インターネットアンケートパネルを使って簡単に調査ができる時代になりましたが、日本リサーチセンターでは、50年近くにわたって、**調査員を使った訪問留置、パネルモニターではない毎回抽出方式**で、日本リサーチセンターオムニバスサーベイ「NOS」を継続実施し、代表性のある信頼の高いデータを提供してきました。

インターネット調査では、回収が難しい70代以上の対象者やインターネットを使っていない人の実態や意識を分析するのにも有用な手法と言えます。

結果要旨

■ユニバーサルデザインが不足していると感じる領域

（もっと工夫や配慮があればさまざまな人に利用しやすくなると思う日常場面での場所・こと）

上位には、日常的に多数の人が利用する公共交通、商業施設が挙げられた。

「レストラン・飲食店」はやや減少したが、公共交通やその他の商業施設については2019年から変化せず、ユニバーサルデザイン化の不足感が集中している状況が継続中。

2019年から2020年にかけて、「観光地」、「温泉・温浴施設」、「スポーツ施設・競技場・球場」などの観光・レジャー領域の施設・場所、「レストラン・飲食店」や「職場」で減少が見られる。しかし、これらはいずれも新型コロナウイルス感染症対策として利用機会が減少したことが想定される領域であることから、ユニバーサルデザインが進んだことが評価されたという可能性のほかに、2020年の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出抑制・利用減により、ユニバーサルデザインの過不足状況自体が評価しにくくなったことによる反応低下の可能性も考えられる。

■「障害」種別想起・「障害者」認識の状況（障害のある人と聞いて思い浮かべる人）

「目の不自由な人」、「身体障害のある人」、「耳の不自由な人」などが上位に挙げられている点は変化がないが、2019年から2020年にかけて「車いすの人」は減少。

概して外見からはわかりにくい障害については想起比率が低めで、種別による開きが見られる。

Ⅲ. 調査結果

1) ユニバーサルデザインが不足していると感じる領域 (もっと工夫や配慮があればさまざまな人に利用しやすくなると思う日常場面での場所・こと)

2020年結果:

もっと工夫や配慮があればさまざまな人に利用しやすくなるのと思ったことがあるもの(複数回答)は、「駅やバス停」(51.7%)、「電車」(41.4%)、「デパート・スーパー・コンビニ・ショッピングセンター」(40.8%)、「レストラン・飲食店」(38.8%)、「横断歩道・信号」(37.8%)、「バス」(37.5%)が3割以上で上位に挙げられた。ユニバーサルデザインが不足していると感じるものは、日常的に多数の人が利用する公共交通、商業施設に対して多く集まっている。

「繁華街」(26.8%)、「観光地」(22.3%)、「ホテル・旅館」・「温泉・温浴施設」(各20.3%)などの観光領域の施設・場所については、いずれも2割台であった。2021年にはオリンピック・パラリンピック開催で国内外の人々の移動がさかんになることが予想される中、観光施設等に対しても、いまだにユニバーサルデザイン化の不足が一定程度感じられている状況がみられた。

性年代別でみると、男性60代、女性30代、女性50代は、全体に比べて5ポイント以上高い割合の項目が7個以上と多く、日常生活の中でもっと工夫や配慮が必要と感じるところが多いことがうかがえる。一方、男性30代、女性40代は全体に比べて5ポイント以上高い項目は皆無で、男性30代以下は「ない」(1割半強)が全体に比べて7ポイント前後高い。



		2020年																									平均回答個数					
		n	駅やバス停	電車	デパート・スーパー・コンビニ・ショッピングセンター	レストラン 飲食店	横断歩道 信号	バス	繁華街	学校	職場	病院 診療所	駐車場	観光地	住宅地	ホテル 旅館	温泉・温浴施設	映画館 遊園地	図書館 役所	競技場 球場	スポーツ施設	タクシー	自動車	電化製品	スマートフォン	文具、食器等の日用品	テレビ放送	パソコン	その他	ない	無回答	
	全体	1,200	51.7	41.4	40.8	38.8	37.8	37.5	26.8	25.4	24.4	24.4	22.6	22.3	20.5	20.3	20.3	20.2	19.8	18.1	15.7	14.1	9.6	7.9	7.3	6.1	5.2	0.9	9.3	1.3	5.9	
性別	男性	592	49.0	40.9	38.7	35.0	34.6	36.0	28.9	24.3	24.5	24.2	20.9	23.1	21.6	19.9	21.1	19.9	20.3	19.6	16.6	16.9	10.1	8.3	8.1	6.1	5.7	0.3	11.8	1.0	5.8	
	女性	608	54.3	41.9	42.9	42.6	41.0	39.0	24.7	26.5	24.3	24.7	24.2	21.5	19.4	20.6	19.4	20.4	19.2	16.6	14.8	11.3	9.0	7.6	6.6	6.1	4.6	1.5	6.9	1.5	5.9	
男性	男性15~29歳	112	39.3	40.2	40.2	27.7	24.1	29.5	23.2	26.8	24.1	18.8	20.5	24.1	20.5	17.0	17.9	28.6	13.4	16.1	14.3	17.9	9.8	11.6	6.3	6.3	8.0	-	16.1	-	5.3	
	男性30~39歳	95	44.2	35.8	38.9	38.9	29.5	32.6	26.3	26.3	23.2	24.2	15.8	23.2	24.2	13.7	16.8	20.0	18.9	20.0	15.8	13.7	8.4	7.4	8.4	6.3	3.2	-	16.8	-	5.4	
	男性40~49歳	111	53.2	47.7	42.3	36.0	28.8	38.7	31.5	27.9	25.2	22.5	23.4	17.1	20.7	25.2	24.3	20.7	19.8	18.9	18.9	21.6	12.6	9.9	9.9	6.3	7.2	-	9.0	0.9	6.2	
	男性50~59歳	93	50.5	40.9	31.2	35.5	38.7	32.3	33.3	19.4	25.8	17.2	21.5	25.8	23.7	17.2	17.2	15.1	18.3	17.2	15.1	11.8	8.6	7.5	6.5	3.2	6.5	-	10.8	1.1	5.5	
	男性60~69歳	107	52.3	46.7	41.1	43.0	43.0	44.9	35.5	26.2	29.0	33.6	20.6	24.3	25.2	27.1	27.1	19.6	31.8	26.2	18.7	19.6	11.2	7.5	8.4	6.5	4.7	0.9	6.5	0.9	6.8	
	男性70~79歳	74	56.8	29.7	36.5	27.0	48.6	37.8	21.6	16.2	17.6	29.7	24.3	25.7	13.5	17.6	23.0	12.2	18.9	18.9	16.2	14.9	9.5	4.1	9.5	8.1	4.1	1.4	12.2	4.1	5.7	
女性	女性15~29歳	110	49.1	43.6	47.3	40.0	31.8	30.9	25.5	28.2	19.1	17.3	28.2	14.5	11.8	12.7	10.0	28.2	14.5	12.7	8.2	10.0	2.7	6.4	2.7	8.2	3.6	-	6.4	1.8	5.2	
	女性30~39歳	92	47.8	41.3	43.5	45.7	31.5	44.6	30.4	31.5	31.5	17.4	27.2	25.0	31.5	20.7	20.7	28.3	17.4	17.4	22.8	10.9	6.5	5.4	4.3	2.2	1.1	4.3	6.5	-	6.1	
	女性40~49歳	110	52.7	41.8	40.0	40.9	31.8	34.5	22.7	26.4	22.7	24.5	17.3	22.7	15.5	20.0	17.3	17.3	16.4	15.5	13.6	11.8	11.8	10.0	5.5	4.5	6.4	0.9	7.3	0.9	5.5	
	女性50~59歳	93	60.2	43.0	51.6	50.5	50.5	41.9	23.7	29.0	23.7	31.2	29.0	21.5	19.4	31.2	26.9	18.3	18.3	17.2	14.0	16.1	12.9	5.4	11.8	4.3	6.5	1.1	5.4	-	6.6	
	女性60~69歳	115	60.0	40.9	40.9	46.1	52.2	41.7	21.7	27.0	30.4	25.2	22.6	25.2	18.3	23.5	21.7	17.4	23.5	20.0	17.4	11.3	8.7	6.1	8.7	7.8	4.3	0.9	6.1	2.6	6.4	
	女性70~79歳	88	55.7	40.9	34.1	31.8	48.9	42.0	25.0	15.9	18.2	34.1	21.6	20.5	22.7	15.9	21.6	12.5	26.1	17.0	13.6	8.0	12.5	12.5	6.8	9.1	5.7	2.3	10.2	3.4	6.0	

Ⅲ. 調査結果

1) ユニバーサルデザインが不足していると感じる領域 (もっと工夫や配慮があればさまざまな人に利用しやすくなると思う日常場面での場所・こと)

時系列結果 :

2019年と2020年の全体の結果を比較してみると、3割以上の上位項目はほぼ同程度で推移しており、日常的に多数の人が利用する公共交通、商業施設に対し、いまだにユニバーサルデザイン化の不足感が集中している状況がみられた。

2019年から2020年にかけて、3ポイント以上減少した領域は、「観光地」、「温泉・温浴施設」、「スポーツ施設・競技場・球場」、「映画館・遊園地」、「ホテル・旅館」などの観光・レジャー領域の施設・場所、「レストラン・飲食店」、「自動車」、「職場」であった。これらはいずれも感染症対策として利用機会が減少したことが想定される領域であることから、ユニバーサルデザインが進んだことが評価されたという可能性のほか、2020年の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出抑制・利用減により、ユニバーサルデザインの過不足状況自体が評価しにくくなったことによる反応低下の可能性も考えられる。

(※回答割合の高い順に並べ替えて表示)



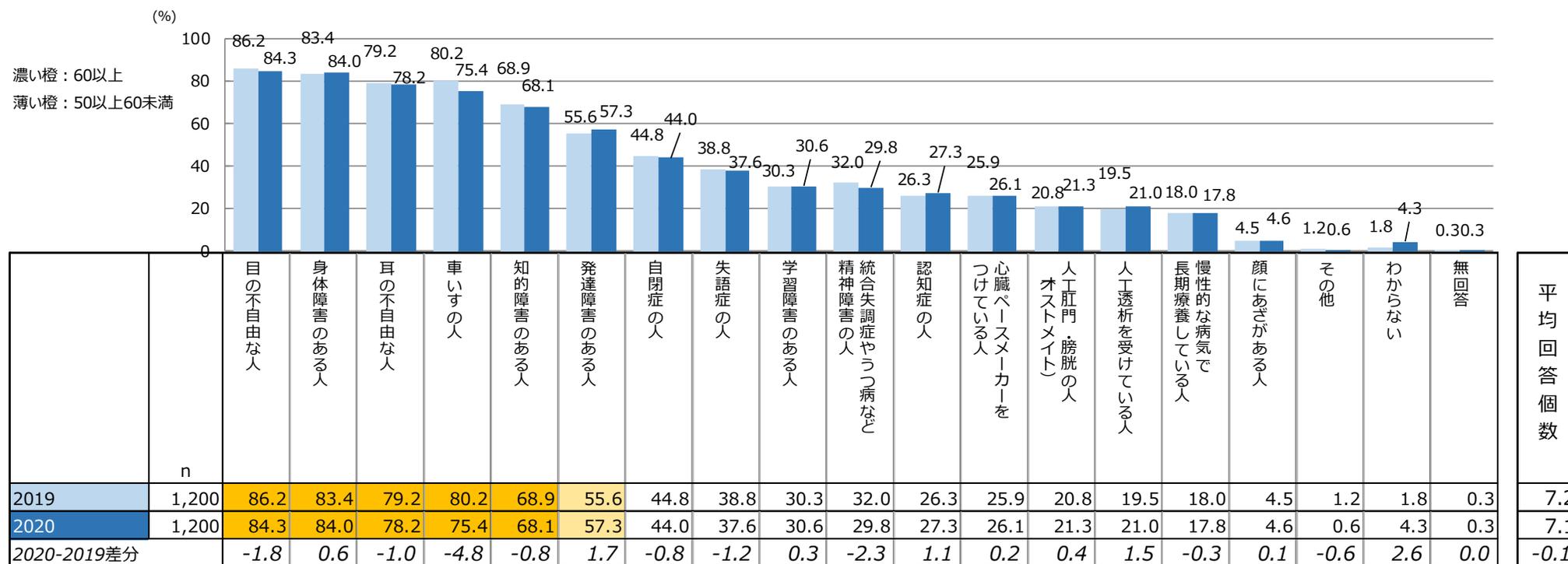
Ⅲ. 調査結果

2) 「障害」種別想起・「障害者」認識の状況（障害のある人と聞いて思い浮かべる人）

時系列結果：

2019年と2020年の全体の結果を比較してみると、2019年、2020年の想起状況（想起率順位、想起率）は概ね同様に、具体的に、想起率上位の障害種別としては、「目の不自由な人」（8割半前後）、「身体障害のある人」（8割半弱）、「耳の不自由な人」（8割弱）、「車いすの人」（7割半～8割）、「知的障害のある人」（7割弱）、「発達障害のある人」（5割半～6割弱）などとなっている。「車いすの人」については2019年から2020年にかけて減少がみられる。概して外見からはわかりにくい障害については、想起比率が低めの傾向がみられる点も同様で、平均回答個数も差はみられない。

（※回答割合の高い順に並べ替えて表示）



Ⅲ. 調査結果

3) 「障害のある人」と聞いて思い浮かべる障害種別 × ユニバーサルデザインが不足していると感じる領域

2020年結果：「障害のある人」という思い浮かべる人（複数回答）で思い浮かぶ障害種別の数の多さは、障害の多様性に対する理解の程度を表す一側面と思われる。「その他」を含め例示した合計17の障害種別のうち、思い浮かぶ種別数は4～8種別の想起者が8～10%で並んでいる。平均想起数は7.1種別であった（右図）。

※想起数は、例えば「目の不自由な人」と「耳の不自由な人」に回答があった場合は2種別思い浮かんだとして集計した。「車いすの人」と「身体障害のある人」等、大きくは身体障害に分類できる項目を2つ回答している場合も、2種別として計算した。

次に、思い浮かぶ障害種別の数について、少ない人（L群：0～4種別）、中程度（M群：5～9種別）、多い人（H群：10～17種別）と3つの群に分けて、ユニバーサルデザインが不足していると感じる領域を比較した（下図）。その結果、思い浮かぶ障害種別が多い人（H群）は、ユニバーサルデザインが不足していると感じる領域の回答率で全体に比べて5ポイント以上高い割合の項目が多く、ユニバーサルデザインが不足していると感じる領域数の平均は8.3領域であるのに対し、思い浮かぶ障害種別が少ない人（L群）は全体に比べて5ポイント以上低い項目が多く、ユニバーサルデザインが不足していると感じる領域数の平均は3.8領域であった。多様な障害を思い浮かべることができる人ほど、さまざまなバリアに気づきやすいと見ることができる。この傾向は2019年と同様となっている。

思い浮かぶ障害種別の数が多い人が、少ない人に比べてユニバーサルデザインが不足していると感じる領域について、回答率の差が20ポイント以上と開き大きい領域に着目したところ、全体で上位の公共施設等のほかに、「職場」、「学校」といった生活に直接関係する領域も含まれている。オリンピック・パラリンピック開催を前に、旅行・スポーツ関係領域だけでなく、生活現場においても、まだユニバーサルデザインのまちづくりがさまざまな障害種別に十分対応しきれていない可能性が示唆される。



問4 日常生活の中で接するものや場所の、障害のある人、高齢者、小さい子どもや子連れの人など、さまざまな人にとって利用しやすい工夫や配慮の状況をお聞きます。
もっと工夫や配慮があればさまざまな人に利用しやすくなるのに思ったことがあるものをすべてお知らせください。(○はいくつでも)

1 住宅地	11 図書館・役所	20 テレビ放送
2 繁華街	12 病院・診療所	21 パソコン
3 横断歩道・信号	13 デパート・スーパー・コンビニ・ ショッピングセンター	22 スマートフォン
4 駅やバス停	14 レストラン・飲食店	23 電化製品
5 電車	15 スポーツ施設・競技場・球場	24 自動車
6 バス	16 映画館・遊園地	25 文具、食器等の日用品
7 タクシー	17 観光地	26 その他()
8 学校	18 ホテル・旅館	27 ない
9 職場	19 温泉・温浴施設	
10 駐車場		

問5 あなたは、「障害のある人」と言うと、どのような人を思い浮かべますか。(○はいくつでも)

1 目の不自由な人	10 人工透析を受けている人
2 耳の不自由な人	11 人工肛門・膀胱の人(オストメイト)
3 失語症の人	12 統合失調症やうつ病など精神障害の人
4 顔にあざがある人	13 学習障害のある人
5 車いすの人	14 自閉症の人
6 身体障害のある人	15 知的障害のある人
7 認知症の人	16 発達障害のある人
8 慢性的な病気で長期療養している人	17 その他()
9 心臓ペースメーカーをつけている人	18 わからない

■ 参考調査票

調査票作成に当たっては、内閣府平成18年度障害者の社会参加促進等に関する国際比較調査の設問を参考にしました。

<参考> 内閣府

平成18年度障害者の社会参加促進等に関する国際比較調査

<https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/tyosa/h18kokusai/tyosa.html>

Q18. あなたは、日常生活の中で接するものや場所について、もう少し工夫や配慮があれば、障害のある人々にも利用しやすくなるのに、と思ったことがありますか。次のうち、そう思うものをすべて選び、番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

日本	ドイツ	アメリカ	
(56.7)	(92.7)	(91.5)	住宅の構造
(65.7)	(89.1)	(85.2)	電車やバスなど公共交通機関
(33.4)	(87.1)	(83.0)	図書館や役所のような公共施設
(45.1)	(83.6)	(84.8)	デパートやスーパー、ホテルなど商業施設
(30.6)	(85.5)	(86.8)	遊園地、映画館など娯楽施設
(47.0)	(85.0)	(83.3)	学校、教育施設
(26.3)	(68.1)	(73.3)	駐車場
(69.3)	(60.7)	(71.4)	道路の段差や信号
(20.2)	(73.4)	(74.9)	テレビや映画での場面の状況説明や字幕
(14.9)	(72.6)	(81.3)	コンピューター、インターネットの使い勝手
(25.4)	(78.4)	(82.8)	電化製品の使い勝手
(22.0)	(62.6)	(77.5)	日用雑貨の使い勝手
(21.1)	(72.4)	(77.5)	自動車の使い勝手
(1.7)	(1.2)	(0.6)	その他
(8.7)	(0.1)	(1.8)	あまり考えたことがない
(0.4)	(0.4)	(1.0)	わからない
(488.5)	(1013.2)	(1056.9)	M.T.

Q2. 障害のある人と言うと、どんな人を思い浮かべますか。次のうち、あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

日本	ドイツ	アメリカ	
(98.3)	(93.7)	(92.0)	目や耳の不自由な人
(62.5)	(74.6)	(70.2)	失語症の人
(4.1)	(10.5)	(6.8)	顔にあざがある人
(89.3)	(97.0)	(93.2)	車椅子の人
(37.2)	(61.9)	(75.6)	高齢で認知症の人
(18.5)	(38.5)	(67.0)	慢性的な病気で長期療養している人
(46.9)	(29.3)	(30.8)	心臓ペースメーカーをつけている人
(33.7)	(58.6)	(72.6)	統合失調症やうつ病など精神病の人
(48.6)	(56.9)	(70.7)	学習障害のある人
(58.6)	(73.2)	(84.3)	自閉症の人
(89.2)	(95.4)	(67.8)	知的障害のある人
(0.2)	(0.2)	(0.8)	この中にはない
(0.1)	(0.1)	(0.1)	わからない
(587.2)	(690.0)	(732.1)	M.T.

《 引用・転載時のお願い 》

本レポートの外部への引用・転載の際は、下記連絡先にメールにて掲載のご連絡をお願い致します。

連絡先：日本リサーチセンター広報室 メール：information@nrc.co.jp

**掲載では必ず当社クレジットを明記していただき、
調査結果のグラフ・表をご利用の場合も、データ部分に当社クレジットの掲載をお願い致します。**